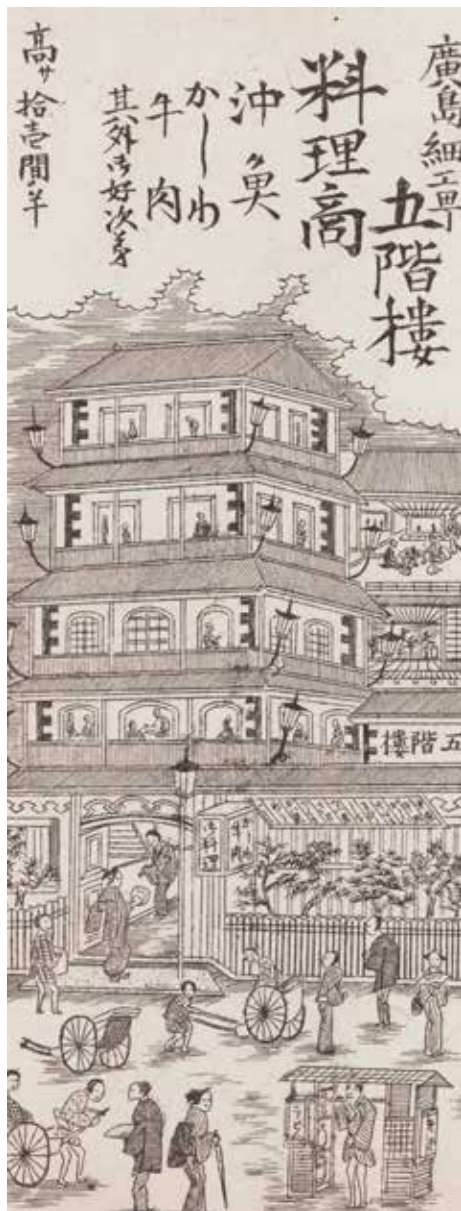




ひろしま郷土資料館だより No.93



広島細工町 五階楼 『広島諸商仕入買物案内記并二名所調べ全』より(当館蔵)

五階楼とは…

5階建ての木造高層建築物で、明治期の広島ランドマークでした。『広島諸商仕入買物案内記并二名所調べ全』の中でも多くの店舗の遠景として描かれています。



明治期の五階楼近景写真 (当館蔵)

目次

- 2-3 特別展 「『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島」
- 4 企画展 「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」
- 4-5 企画展 「重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器」展示」
- 6 企画展 「広島スポーツ」 7 イベント情報 8 平成28年度を振り返って
- 9 寄贈資料一覧 10 平成29年度イベント情報

特別展

「『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島」

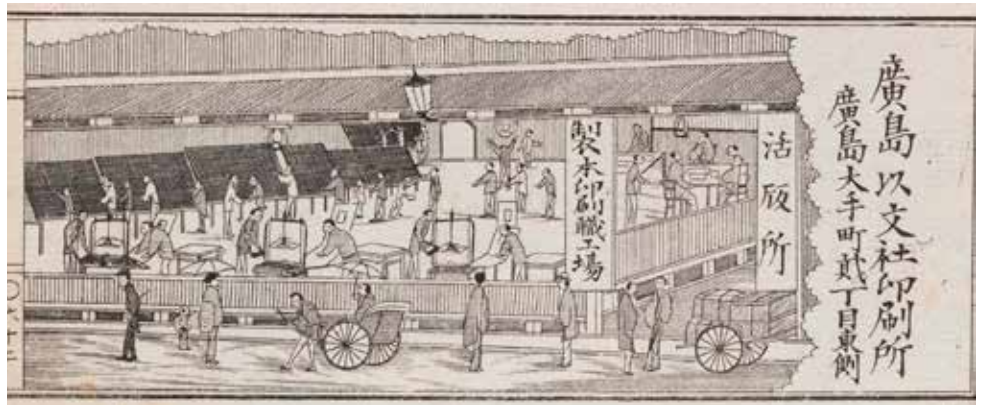
会期：平成28年12月10日(土)～平成29年2月19日(日)

今年度の特別展で取り上げた『広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ全』(以下、「買物案内記」と略記)とは明治16年(1883)に発行された商工便覧です。現存する買物案内記は数点確認されていますが、今回の特別展・図録では当館所蔵のものを紹介しました。

発行当時、広島県下は郡に分けられ、広島は特別の扱いで広島区となっていました。この広島区が明治22年(1889)に市制施行地に指定されて広島市になります。買物案内記では広島区を中心部、主に旧西国街道沿いにあった店舗および名所が紹介されているのですが、これらの様子が緻密に描写された銅版画で紹介されているのが特徴です。発行は大阪の業者が主導したようですが、実際の製作は広島区内の人々の手で行われました。広島在住の人が実際にその店舗を取材し、絵を描き、そして銅版画を作成したのです。店舗内を強調して描写するためにデフォルメされており、不正確な部分もありますが、正確に描写するよう心がけている様子がかげえ、写真印刷がまだ普及していなかった時代の町や生活の様子を知ることができる貴重な資料となっています。主役である店舗もそうですが、訪れた客や路上の人々も生き生きと描かれており、見て楽しいのも特徴と言えるでしょう。

販売については広島区内にあった2つの書店で行われたほか、大阪・東京・京都・金沢・熊本・松江で取り扱われていました。買物案内記には小売店のほか、製作・問屋・卸売店も多く紹介されています。広島在住の人々の買物手引書であると同時に、広島で商売・仕入を行う人々のための案内書としての性格もあると思われ、そのため大都市および近郊の県でも販売されたのでしょう。

描かれている店舗のほとんどは城下町であった時代の伝統的な町屋ですが、一方で西洋風の軒灯などで飾られていたり、二階の天井が高くなっている建物も見られます(江戸時代は二階の天井が低いのが一般的でした)。また、江戸時代から続く老舗が昔ながらの商売を行っている一方で、洋酒や



広島以分社印刷所 広島大手町貳丁目東側

西洋雑貨を扱うなど新しい業態の店舗も登場しています。町はまさに伝統と近代化・西洋化が混然一体となった状態だったといえます。新しい時代の変化に対して、あるものはかつ迅速に対応しつつ、あるものは伝統を守りつつ、必死で生き残りをかけていたことでしょう。

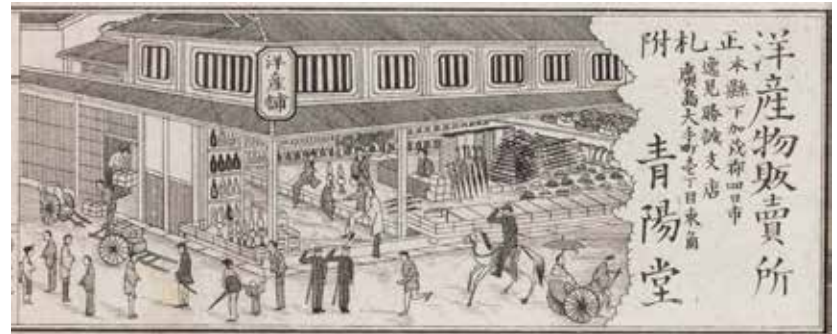
文明開化の時代を思わせる店舗をいくつか紹介してみましょう。上は現在の中区大手町一丁目にあった印刷所の様子です。江戸時代、文字の印刷は「木版印刷」が主流でしたが、明治に入ってから独立した活字を版に組んで印刷する「活版印刷」が普及しました。描かれている印刷所では活版印刷を行っており、店舗奥には活字がずらりと並んでいます。

右上は明治初頭に建設された木造の擬洋風高層建築の一つが描かれています。現在の平和記念公園内にあった楊弓店（弓で的当てをする遊戯店）の付属の建物で、当時このような高層の建物は珍しく、人々の目を引いたと思われます。各階の屋根には洋風の軒灯が設けられており、夜は遊興の場を華やかに彩ったことでしょう。



道家伊助本宅 楊弓店 広島中島慈仙寺ノ鼻 道家伊助、慈仙寺表門

右下は現在の中区大手町一丁目にあった西洋雑貨の店を紹介しています。店舗内には男性用の帽子・洋傘・カバン・ビン・柱時計・石油ランプなどが並んでいます。買物案内記には帽子を被った男性や、傘を手にした男女が多く描かれており、当時流行のファッションになっていたことがうかがえます。



洋産物販売所 正札附 本県下加茂郡四日市逸見勝誠支店 広島大手町壹丁目東角 青陽堂

この他にも広島の近代化について情報が満載の買物案内記を、今後も大切にし、さらに調査していきたいと思います。

(本田 美和子)

新刊紹介 特別展図録『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島

明治16年（1883）に発行された『広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ全』を通して近代の広島の様子を紹介します。

目次

はじめに

目次・凡例

江戸時代の残照

- 1 江戸時代から続く老舗
- 2 江戸時代の広島の特産品
- 3 江戸時代以来の伝統的な商品

文明開化の音がする

- 1 新しい制度・施設
- 2 新しい暮らし
- 3 近代黎明期の広島を駆け抜けた人々

店舗・施設・名所図版一覧

主な参考文献

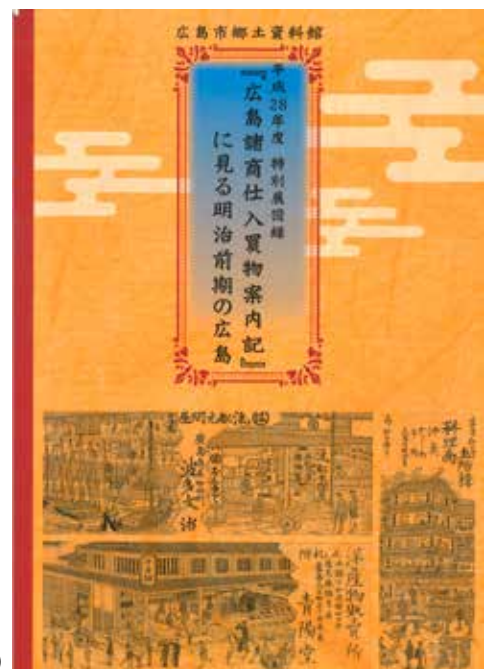
展示協力者・奥付

A4判 100ページ

定価：800円（税込）

送料：300円

（2冊の場合は350円）



企画展

「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：平成28年9月3日(土)～平成28年12月4日(日)

広島市郷土資料館では、平成13年度から毎年恒例の秋の展示として、企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」を開催しています。

童話『ごんぎつね』は新美南吉の代表作で、子どもから大人まで、幅広い世代に親しまれている物語です。新美南吉は、大正2年(1913)に現在の、愛知県半田市に生まれました。南吉は、4歳で母親を亡くし、養子に出されるなどの体験を経て18歳の時に童話『ごんぎつね』を世に出しています。病のため、29歳という若さでこの世を去った南吉ですが、数多くの心に響く作品を残しています。今回の展示では、童話『ごんぎつね』のストーリーに沿って、パネルや資料で昔の暮らしを紹介しました。



ごんぎつねのストーリーに登場する道具や昔の人々が使っていた民具を展示しました。

物語の舞台は、江戸時代の終わり頃の農村です。人々は、自然に囲まれた山里で、様々な工夫をして暮らしていました。お話の中に登場する、「はりきり網」や「びく」「おはぐる」など、昔の道具を実際に見ることができるのも、この展示の醍醐味といえます。

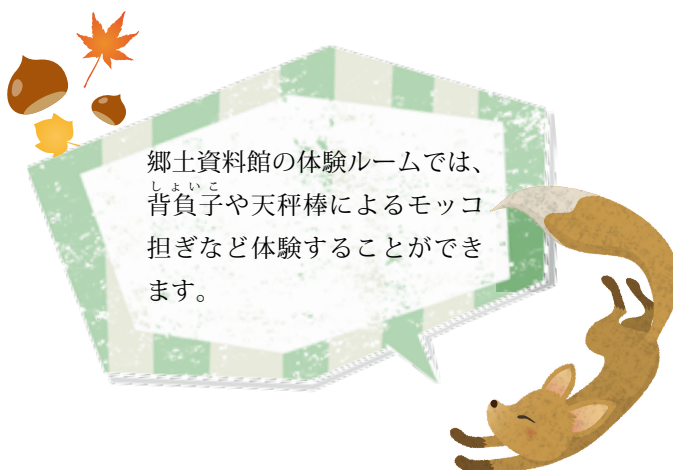
また、童話『ごんぎつね』は、広島市内の小学校の4年生の国語の教科書にも掲載されており、学校での学びをより一層深める場としてもご活用いただいています。

ごん狐や兵十たちが、生き生きと描かれる童話の世界。その背景に描かれる、人々の暮らしや知恵に学び、まだ電気もガスも水道もない時代の先人たちが、どのように暮らし、生きていたのかに思いをはせることで、新たな気づきや発見に出会うことができるかもしれません。次年度以降も、企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」を、より多くの方々に楽しんでいただければ幸いです。

(正連山 恵)



ものを運ぶときに使われていた道具たち。わらや木材で作られています。



郷土資料館の体験ルームでは、しよいこや天秤棒によるモッコ担ぎなど体験することができます。

企画展

「重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器」展示」

会期：平成 28 年 10 月 22 日（土）～平成 28 年 11 月 20 日（日）

明治 24 年（1891）、光町尽三郎氏が夢のお告げによって発見したといわれる 3 点の青銅器（特に銅鐸）は、間もなく学会の注目を受けることとなります。高名な考古学者森本六爾などが、実際に来広して現地に赴き、発見当時の様子を詳しく調べて、学術誌に寄稿しているのです。銅鐸を上下に二分する特徴的な横帯文の構成やその上半部に描かれた目の文様（魔を払うという意味で邪視文と呼ばれる）など、近畿地方を中心に当時見つけていた銅鐸と異なった特徴を多く持っており、注目されることになりました。

森本によると、青銅器は標高 413m の木の宗山（広島市東区福田町）の中腹、烏帽子岩と言われる



展示風景

大きな立石の下あたり、比較的扁平で人為的に加工した痕跡のある花崗岩の下、木炭の混じった土の中から出土したのだそうです。このとき丸底の土器も出土したそうですが、これは残されていません。出土した三点の青銅器は、昭和 27 年には、九州を中心に分布する銅剣・銅戈と近畿地方を中心に分布する銅鐸がともに出土した稀有な例として重要文化財に指定されています。

重要文化財である 3 点の文化財は、発見

後光町家に伝えられ、大切に保管されてきました。そのため、めったに博物館等に展示されることもなく、研究者が実見する機会もほとんどなく、今日に至っています。当然、広島市内で展示され、市民が実物を見る機会もありませんでした。

青銅器は、所有者のご厚意により、平成 24 年 11 月に広島市に寄託され、郷土資料館が保管することになりました。この後、郷土資料館では、それを記念して企画展が早速計画され、広島市内で広く市民に重要文化財である青銅器を観覧する機会を提供することとなりました。点の青銅器の観覧を希望する市民の声が多く寄せられました。今回の展示は、寄せられた市民の要望に応えるものとして、前回から 3 年が経過した第 2 回目の展示として企画されたものです。前回が広島市の歴史の流れの中で他の多くの出土品とともに三点の青銅器を位置づけようと意図されたもので



展示ガイドの様子

あったのに対して、今回は三点の青銅器の価値に焦点を絞って、その解明を試みた展示となっています。今後も、重要文化財という資料の持つ価値に敬意を払って保存上の配慮を一番に行いつつ、当館が保管しているという利点を大いに活用して、市民への観覧の機会を積極的に提供していくことも考えていく必要があるでしょう。

（若島 一則）

企画展

「広島のスポート」

会期：平成29年2月25日(土)～平成29年4月16日(日)



昭和3年に行われたアムステルダムオリンピック大会において、日本人初の金メダリストとなった織田幹雄選手のジャンプ(左)。メインポールには、日の丸が掲揚された。(上) (広島県体育協会蔵)

野球・サッカー・バレーボールなど現在、私たちが接しているスポーツの多くが明治期に西洋から導入されたものです。日本人が国内で近代スポーツとじかに接する機会をもったのは幕末で、明治期になると学校に雇われていた外国人教師たちによって近代スポーツが日本各地に伝えられました。

広島で近代スポーツが行われるようになったのは明治20年頃になります。当時の代表的なスポーツは野球・テニス・漕艇(ボート)・武道でした。大正期に入るとバレーボールやサッカーも行われるようになり、広島県師範学校(現広島大学)の教師や学生達の尽力によって、さまざまなスポーツが県内に普及していきます。さらに、数多くの競技会が開催されるようになり、広島のスポート界は急激に発展しました。



昭和32年に行われた旧広島市民球場初ナイターのウイニングボール



株式会社広島野球倶楽部株券
(広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵)

そして、昭和期になると野球では、広島商業学校(現広島県立広島商業高校)と広陵中学校(現広陵高校)が全国大会で優勝を果たしました。陸上では、昭和3年(1928)のアムステルダムオリンピックにおいて織田幹雄氏が三段跳びで日本人初の金メダルを獲得しました。相撲では、宇品出身の安芸ノ海が横綱に昇進しました。その他、サッカー・バレーボール・水泳など多くの競技で全国優勝を果たすなど広島のスポート界は全盛期を迎えました。しかし、昭和12年(1937)の日中戦争開戦以降は戦時色が強くなっていくと共に、華々しい成績を残した広島のスポート界もその歩みを止めてしまいます。

戦後になると、昭和25年(1950)には広島カープが結成され、翌年には国体が開催されるなど、復興の槌音とともに広島のスポート界も再び勢いづいてゆきます。そして今日、広島には多くのプロスポーツチームが存在し、国内トップレベルのアスリート達が広島を本拠地として活動するなど、広島

は再びスポーツ王国としての地位を築き上げています。

今回の企画展では、戦前から戦後復興期を中心に、写真や戦前の運動会の様子が写された絵葉書、広島カープのユニフォームなど貴重な資料を展示して、スポーツ王国広島の軌跡を紹介しております。「スポーツ」という身近なテーマから、広島の近代史について理解を深めていただければ幸いです。

(日原 絵理)



左側に展示してあるユニフォームは高校野球100年を記念して復刻された広島中学校(現国泰寺高校)の野球部ユニフォーム。

イベント「駄菓子作り広場」

実施日：平成28年11月3日(木・祝)

多くの文化施設が無料開放日となる11月3日の「文化の日」、郷土資料館ではスペシャル・イベント「駄菓子作り広場」を開催しました。

「駄菓子作り広場」は、昔なつかしい駄菓子作りや夜店・縁日でおなじみの遊びが体験できるイベントで、今年はポップコーン作り・一銭洋食作り・あったかわらびもち作り・綿菓子作り・ラムネ菓子作り・スーパーボールすくい・型抜きなどのブースを用意しました。

当日は天気にも恵まれ、約7,000人ものお客さまにご来館いただき、駄菓子づくりやなつかしい遊びに挑戦していただきました。お客様の多くが初めての体験だったと思われそうですが、自らの手で作った駄菓子は格別な味だったようで、会場はお客様の笑顔であふれていました。この日はボランティアの皆さんにも運営に参加していただきましたが、日頃の研鑽の成果を発揮することが出来たことはもちろん、多くのお客様と交流でき、充実した一日だったようです。

「駄菓子作り広場」は、職員・ボランティア、そして参加者の方が一体となって楽しみ、交流できる貴重なイベントであり、今後も大切にしていきたいと思えます。(篠原 達也)



公園前では、綿菓子やラムネ菓子作り、スーパーボールすくいなどを行いました。



当日は天気も良く、大変にぎわいました。

活動報告

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

教室事業

- 10月 8日(土) お手玉作り(親子教室)
- 11月12日(土) 企画展関連講座「青銅器からひろしまを読み解く」
- 11月27日(日) 絵手紙で年賀状作り(親子教室)
- 12月 2日(金) 水引き飾り作り(大人向け教室)
- 12月17日(土) 羽子板作り(親子教室)
- 12月23日(祝) もちつき体験
- 1月15日(日) けん玉教室
- 1月21日(土) 特別展関連講座「買物案内記に見る近代の広島」
- 2月 4日(土) バウムクーヘン作り
- 2月 5日(日) バウムクーヘン作り
- 2月11日(祝) 糸つむぎ体験(親子教室)
- 2月18日(土) カキ船料理体験(大人向け教室)
- 2月26日(日) ひな人形作り
- 3月 4日(土) わらざうり作り
- 3月18日(土) ぼたもち作り



教室「バウムクーヘン作り」の様子



植物公園での出張事業の様子

その他の事業・館外活動

- 10月 2日(日) 秋のグリーンフェア 2016(植物公園)で工作指導。「みつばちのからくりのぼり人形作り」
- 10月 8日(土) 広島市観光ボランティア養成講座(平和記念公園レストハウス)で講演。「広島市の近代史」
- 10月19日(水) 広島の文化懇談会(コミュニティーアカデミー上幟)で講演。「広島歴史散歩入門」
- 10月22日(土) わくわく図書館講座(東区図書館)で講演「輝元の地名広島命名について」
- 10月26日(水) 武家茶道文化を学ぶ講座(古田公民館)で講演「軍学について」
- 11月16日(火) 安田女子中学高等学校で授業「学問の入り口」(高校1年生対象)
- 12月10日(土) 学術研修会(松田病院)で講演「翠町周辺の歴史」
- 12月20日(火) 高陽東高等学校で授業「郷土の風土と文化」(高校3年生対象)
- 1月15日(日) 呉市第四地区社会福祉協議会の研修会(フィールドワーク)で旧広島陸軍被服支廠を案内
- 1月16日(月) 広島市立大学で講義「博物館資料論」
- 1月25日(水) 広島歴史を知る会(三篠公民館)で講演「広島史の古代遺跡」
- 1月28日(土) ぼくらの昭和物語(皆賀公民館)で講演「みち今昔物語」
- 2月15日(水) へそ曲がり倶楽部例会で講演「広島城下に残る『水際の歴史』を探る」
- 2月19日(日) 大人のための図書館セミナー(中区図書館)で講演「広島歴史さんぽ」
- 2月22日(水) 広島歴史を知る会(三篠公民館)で講演「軍都広島形成」

- 2月23日(木) 武家茶道文化を学ぶ講座(古田公民館)で講演「広島城下について」
 3月 4日(土) うじな通特別講演会(宇品公民館)で講演「広島段差めぐり」
 3月18日(土) ひろしま歴史探検隊まつり(広島城二の丸)で工作・体験指導等
 3月22日(水) 広島を歴史を知る会(三篠公民館)で講演「西国街道」
 3月25日(土) 広島城アカデミック講座(こども文化科学館)で講演「新開地の発展について」

新着収蔵資料

平成28年4月から平成29年3月までにご寄贈いただいた資料です。みなさまありがとうございました。

資料番号	資料名	数量	寄贈者	受入年月日	備考
2016-0001 } 2016-0089	五日市尋常高等小学校(高等小学校)卒業証書 ほか88件	111	濱本一志	H28.12.2	日中戦争で戦死した兵士の遺品等
2016-0090 } 2016-0099	愛国婦人会中原村分会旗 ほか9件	11	澤野まゆみ	H28.12.2	
2016-0100	毛糸蒸伸器	1	濱中シズエ	H28.12.2	箱・説明書付き

平成28年度を振り返って

近年まれに見る大雪となったこの冬、白い雪に包まれたレンガ造りの当館を背にシャッターを切る家族が印象的でした。今そのレンガの壁に春を感じさせる温かい日が差し込み新しい年度の始まりを照らしているようです。

さて、今年度を振り返ってみると、広島が熱い思いに包まれた出来事がたくさん起き、それに沿うように当館の事業を進めてくれたような気がします。

アメリカの現職大統領オバマさんの被爆地訪問により、被爆建物でもある当館のイベントでは、多くの来館者とともに核兵器のない平和な世界への思いを共有しました。また、NHKの番組「ブラタモリ」では「洲てきなシティ広島」の歴史を当館の学芸員とともにたどることができ、さらに、スポーツの世界では、リオデジャネイロオリンピックで広島出身の選手が大活躍、広島カープが25年振りにリーグ優勝を果たすなど大いに盛り上がり、その余韻にひたりながら企画展「広島をスポーツ」を開催することができました。

今年度も、多くの皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。次年度も、引き続きよろしくをお願いします。

(館長 中田 幸治)

平成29年度 展示紹介

企画展 民具の魅力

平成29年4月26日(水)～7月9日(日)

昔から人の手で作られ、日常生活の中で愛用されてきた民具。その中には、さまざまな知恵や工夫が生かされています。昔の人の工夫や知恵を探り、民具の魅力を紹介します。



下駄とちょうちん

企画展 夏休みおばけの博物館

平成29年7月21日(金)～8月27日(日)

おばけ屋敷を追体験してもらうとともに、おばけの多様な世界や、おばけを生み出した昔の人々の生活を紹介します。



妖怪 猿猴

企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

平成29年9月5日(火)～11月23日(木・祝)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



展示の様子

企画展 今昔広島名所めぐり

平成29年12月1日(金)～平成30年1月21日(日)

戦前の広島には江戸時代以来の神社仏閣や旧大名家の庭園、軍事施設など多くの名所が存在していました。地誌や絵葉書などを通して、広島名所の移り変わりを紹介します。



絵葉書「広島県物産陳列館」

特別展 宇品港

平成30年2月1日(木)～3月25日(日)

明治22年(1889)に完成し、現代に至るまで広島歴史・発展に大きく影響を与えた宇品港(現在の広島港)について紹介します。



明治時代の宇品港棧橋

ひろしま郷土資料館だより No.93 平成29年(2017)3月31日発行
編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20
TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772
URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

